

宮脇地区公民館（南九州市）

みんなで「いっしょき」 つながり重視の地域創造



地区所有のキッチンカー

地区概要

宮脇地区は、行政機関や金融機関などがある旧額娃町の中心地と農家が点在する山間部の、計10自治会から構成される。

コミプラ設立の経緯

南九州市のモデル地区として、平成30年度に選定された。事前準備として、今後活動の中心となっていく10名でファシリテーションに

ついて学ぶ養成講座を実施。そのメンバーが中心となり、ワークショップ形式の「宮脇かたろかい」を12回開催し、地区の課題やこれからやりたいこと・できることなどの意見を出し合い、住民の意識共有を行った。

令和元年度に、活動の実働部隊として「NPO法人いっしょき宮脇」を設立。同NPO法人が中心となって「みやわき10年戦略ビジョン」に基づき活動を展開している。

特徴的な活動

①NPO法人いっしょき宮脇を中心とした活動

令和2年度にはNPO法人メンバーが中心となり空き店舗を改修し、交流拠点「みやまる商店」を整備した。現在は、NPO法人メンバー等によるお茶、和菓子、コーヒーの提供やイベントを開催するなど、地域の交流拠点施設となっている。



交流拠点施設「みやまる商店」



いっしょき宮脇開催のイベントの様子

その他、総務省の補助を受けて購入したキッチンカーを利用した事業や、Instagram・Facebookを活用して、「みやまる商店」や地域の人が先生となる「まちの楽校」に関する情報、その他地域イベントの様子を「いっしょき瓦版」により広く発信するなどの幅広い取り組みを行っている。

②地域全部で盛り上がる11月灯

宮脇地区では令和2年から、自治会、老人クラブ、女性部、青年団、小学校、営農組合などの団体が協力して地域イベント「11月灯」を開催しており、宅配形式の飲食店応援企画（みやわきEats）や、キッチンカーを活用した地元産品を使った飲食の提供、地域の特産品を販売する軽トラ市などを行っている。

100名以上の様々な年代の参加者がタスキをつないで12時間走り続ける「リレーマラソン」はイベントの目玉となっており、ゴールの際には「みやわき花火」を打ち上げている。地域全体で作り上げ、多くの住民同士が関わることができる機会になっているこのイベントは、1年で最も宮脇地区が盛り上がる事業になっている。



11月灯での花火

今後の展望（コミプラの声）

宮脇地区は独居高齢者が多いため、地域高齢者が元気かどうか把握するために隣近所で声が掛ける環境を作ることが重要である。その環境を作るために、会員の確保、更には地域内で世代をまたいだ3世帯のグループを作り、声をかけあうことができる「3人組制度」と呼ぶ共助のシステムを構築していきたいと考えている。

また、みやまる商店のように地域の新たな拠点を作ることはメリットがある反面、維持費の負担が大きいことが課題となっている。財源確保のためにも、みやまる商店やキッチンカーのより有効な活用法を模索していきたい。

南九州市から一言

宮脇地区は南九州市の中でも先進的な取り組みを行っている地域です。市では全ての地区のコミプラ設立を目標としているので、宮脇地区の事例や失敗談などを参考としながらより良いまちづくりを進めていきたいと考えています。

利用した補助金など

- ・過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業（総務省）（R2年度）
- ・コミュニティ・プラットフォーム形成促進事業（県）（R元・2年度）
- ・ウィズコロナ協働活動促進事業（県）（R2年度）
- ・南九州市まちづくり事業（市）（R元年度～）



特定非営利活動法人
いっしょき宮脇
Facebook

Passion

住民の声をよく聴いて
事業に反映させるべし！